

甲状腺外科草子 19

大学への道：中江藤樹

杉野 圭三

代表的日本人

「近江聖人」と謳われた中江藤樹（1608-1648）は内村鑑三の「代表的日本人」に取り上げられた人物だが、知名度は低く、マスコミに取り上げられることも少ない。

『大学之道、在明明徳：大学の道は明徳を明らかにすることにある』、これは四書五経の『大学』（BC430 頃）の冒頭である。

『大学』に傾倒した藤樹は 20 歳の時に『大学啓蒙』を著し、当時としても早熟な秀才ぶりが伺われる。

藤樹は琵琶湖西岸の小川村（滋賀県高島郡安曇川町）に生まれ、9 歳で武士である祖父・徳左衛門の養子となり米子藩（加藤家）に赴き、1617 年藩主の伊予大洲（愛媛）への国替えとともに移住する。しかし、林羅山の弟子である朱子学者・若山道四郎と学問的に対立し 1642 年脱藩し、故郷に帰り塾を開いた。

安曇川訪問

かねてから、藤樹の足跡を辿りたいと考えていたが、2002 年春ようやく JR 湖西線安曇川駅に降り立った。



藤樹銅像

安曇川の菜の花

駅前には中江藤樹像があり、藤樹記念館に向かう道端には琵琶湖から用水路が流れていた。小魚が群れ、菜の花の咲く風景は昔懐かしい抒情あふれる風景である。

藤樹記念館には、藤樹が教科書として用いた夥しい数の書籍が展示され、擦り切れた趣

は塾生が長年熱心に使用したものであろう。



藤樹書院

藤樹神社

塾で使用された本(大学)

藤樹没後、書院・墓前では忌日などに赤飯、酒肴を供えて時祭が行われ、300 年祭にあたる大正 10 年に藤樹神社が創建され、東郷平八郎の書が残されている。



「五事を正す」扇子（記念館で発売中） 東郷元帥書

『五事を正す』という有名な教えがある。

五事を正す

「貌」：やさしく和やかな顔つきで人と接する

「言」：気持ちよく受け入れられる話し方

「視」：暖かく人を見、物を見る

「聴」：相手の話を良く聞く

「思」：相手を思いやる心

彼の教義は、『大学』、『中庸』、『論語』、『陽明学』などを併せた独自のもので、短い人生の中で『人を教える』ことに情熱を注ぎ、身分の上下に関係なく、庶民にも人の生きるべき道を分かりやすく説き、永く人々に記憶されるものとなった。

かくも時代を超えて地元の人々に敬愛され、神社まで建立される学者・教育者は稀なものであろう。

（広大第二外科同門会誌 DOMON 122、2008 年を改訂）

参考文献

内村鑑三：『代表的日本人』（岩波文庫）

藤樹書院：近江聖人、中江藤樹、1999。

中江藤樹記念館：図解 中江藤樹、中江藤樹記念館、1988

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022 年 2 月 24 日